

近畿雑草研究会ニュースレター No.28

近畿雑草研究会

ご挨拶

代表 三浦 励一

今年度より研究会代表を仰せつかりました、龍谷大学農学部の中浦励一です。いきなりですが、ニュースレターの配信が例年より大幅に遅れましたことをご詫び申し上げます。

日本雑草学会の会員でもいらっしゃる皆さまはすでにご存知のことですが、この3月に一般社団法人日本雑草学会が設立され、4月に高松で開催された雑草学会大会において、任意団体としての日本雑草学会から一般社団法人への引き継ぎの諸手続きが行われました。これにともない、他地域の支部会は廃止されましたが、地域の研究会へのサポートの方針は変わらないとのこと。近畿雑草研究会はもともと支部会の地位を選んではいみませんでした。他地域で支部会が果たしてきた役割も含めて、日本雑草学会と協調して活動できる体制は今後も維持していきたいと考えております。

近畿地方では、雑草学に関わりをもつ方々の所属が、試験場、農薬関連会社、園芸・緑化関連会社、大学その他の教育研究機関（学生会員を含む）、個人的に関心の深い方々と、じつに多様です。多様なバックグラウンドをもつ会員がおおむね日帰りできる距離に集まっているのは、近畿雑草研究会の大きなメリットです。この研究会が皆さまの親しい交流の場、雑草と雑草問題に関する多角的な情報が縦横に飛び交う場であり続けられるよう、会員各位の積極的なご参

加をよろしくお願いいたします。

さて、直前のご案内となってしまいましたが、7月27日（土）には京都大学農学部において、日本雑草学会学術研究部会のひとつである除草剤抵抗性雑草研究会の開催と合わせた勉強会を予定しております。本ニュースレター末尾にご案内しますので、どうぞふるってお出かけください。

1. 活動報告

（1）現地見学会

2018年6月29日（金）に滋賀県野洲市の「中道農園」において、水稻の有機栽培の現地見学会を開催した。見学会では16名が参加して、同農園代表の中道唯幸様から無農薬に取り組まれた経過や雑草との向き合い方、さらには農業から人生に通じる考え方をうかがった。その後、取り組まれている水稻の有機栽培水田を見学し、意見交換を行った。

（2）研究会および総会

平成30年度近畿雑草研究会を、2018年12月8日（土）に近畿大学農学部において開催した。研究発表は4課題であった。

「研究発表」

除草機を用いたヤマトトウキの雑草管理について

大谷正孝（奈良県農業研究開発センター大和野菜研究センター）

ヤマトトウキは国産の代表的な薬用作物である。古くから奈良県で盛んに栽培されてきたが、初期生育が緩慢で雑草との競合に弱く、除草作業に多大な労力を要することもあり、近年、生産は減少している。そこで、2015年より、畑作物において普及している条間・株間除草機による機械除草を検討してきた。2017年までは、条間をカルチ、株間を除草レーキ、畝肩を除草ディスクの組み合わせにより除草を行ってきたが、株の引き抜きや損傷が発生しやすい。そこで、2018年は、除草レーキを用いず、カルチと小型培土板および除草ディスクの組み合わせにより除草を行い、同時に株間の雑草繁茂対策として、密植や早期（秋）定植を検討したところ、慣行（敷きワラ）と同等以上の抑草が可能であった。なお、本研究は農林水産省委託プロジェクト「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」により実施した。

小豆栽培過程におけるヒロハフウリンホオズキ生態特性の把握

辻 康介（京都府農林水産技術センター農林センター）

丹波大納言小豆栽培においては、難防除雑草である外来ホオズキ類の被害が急速に拡大しており、早急な対策が求められている。そこで、小豆の栽培期間中に発生するホオズキ類を抑制する技術体系を確立するため、それらの繁茂の実態や生態等の把握を進め、小豆栽培におけるホオズキ類の総合的防除技術開発に向けた基礎的知見を得ることを目的に調査を行った。その結果、小豆圃場のホオズキ類は、ヒロハフウリンホオズキ、ホソバフウリンホオズキ、センナリホオズキの3種が存在していた。また、ホオズキの多発ほ場では、隣接ほ場であっても、優

占種やホオズキによるほ場の被覆度に差が見られた。ホオズキの発生は長期間に及び、7月下旬から9月上旬にまで及ぶ。しかし、9月上旬以降に出芽した個体は結実には至らなかった。ホオズキ種子の出芽可能条件は埋没深度2 cm程度、温度30℃程度であった。以上より、作土を攪乱しない不耕起播種によって、ホオズキ類の発生量が抑制できる可能性が考えられた。

輸入穀物を介して侵入する外来植物の国際貿易港における定着状況

○池田栄史1、下野嘉子1、浅井元朗2、富永達1（1京都大学、2農研機構）

近年、国際貿易の拡大に伴って外来種の侵入が数量ともに増加し、それら外来種による様々な負の影響が世界的に大きな問題となっている。輸入穀物には多くの雑草種子が混入しており、輸入穀物の積み下ろしや搬送を行う国際貿易港では、輸入穀物からのこぼれ落ち由来の植物が多数生育している。こうした植物を定量化することによって、輸入穀物を介して侵入する外来植物が実際にどの程度定着しているのか評価することが可能である。

本研究では、東北地方の計7港の国際貿易港で植生調査を行い、穀物を輸入している港と、穀物を輸入していない港の植生を比較することによって、輸入穀物からのこぼれ落ち由来の外来雑草の定着状況を明らかにする。また、前年までに行った北海道と関東以南の国際貿易港での植生調査結果もあわせて、日本の国際貿易港の雑草相の地理的な差異について考察を行う。

中尾佐助の植物探検踏葉

山口 裕文（大阪府立大学）

農業博物学者中尾佐助は、25回の海外探検で人間生活と農業に関わる植物の多様性を調査している。初期の探検では導入育種も目的とした

植物探査で種子や腊葉標本を収集し、後期の探査では撮影画像をタイプスライドと呼んで根拠とした著作を發表している。中尾の探査による腊葉標本の多くは京都大学博物館に所蔵されているが、一部が未整理のまま大阪府立大学に残っている。シッキム・アッサム1959、東ネパール1962、アフリカ1968、東南アジア1978、フィジー1982の腊葉のうちから興味深い植物を大阪府立大学図書館中尾スライドDB (<http://nakao-db.center.osakafu-u.ac.jp/index.html>) の画像と併せて紹介する。東ネパールの標本にはシャクナゲ類 *Rhododendron* が、東南アジアの標本ではマレーシア・パシヨのジャングルのウツボカズラ類が、フィジーの標本には原始的被子植物のグネツムがある。西アフリカの標本には、シアバターノキ *Vitellaria paradoxa*、ラゴスの市場で pot-herb として売られていたイヌビユの仲間、食用として採集されているニジェール河の野生イネやブルグ（浮き性野生ヒエ）、*Sacciolepis* とスイレンなどの腊葉があり、アッサムの採集品では木原均とともに調べた浮きイネへの擬態雑草 *Paspalidium geminatum* や野生イネと雑草イネの標本、府立大学での栽培品では2等兵としての終戦時に内蒙で採集した種子から育てたユーマイ（はだか燕麥）の標本がある。

2. 会計報告等

2018年12月8日（土）に近畿大学農学部で開かれた近畿雑草研究会総会において承認された平成28年度の収支決算報告・会計監査報告ならびに平成30年度の予算案を以下に転載します。

（1）平成29年度収支決算報告

（会計年度：平成29年4月1日
～平成30年3月31日）

収入の部

科目	金額（円）
前年度繰越金	177,520
会費	10,000
利子	1
合計	187,521

支出の部

科目	金額（円）
事務・通信費	0
講演会講師旅費・謝金	1,900
振込手数料	0
合計	1,900

差引残高 185,621 円。

残金は次年度に繰り越します。

上記の通り、相違ありません。

平成30年12月8日

庶務・会計幹事

大橋善之 ㊞

（2）平成29年度会計監査報告

平成29年度の近畿雑草研究会の会計に関し、会計帳簿、証拠書類（領収書、会費受付記録等）および預金通帳を検査照合した結果、収支とも適正に執行され、決算書に適正に表示されていることを認めます。

平成30年12月8日

会計監査 下野 嘉子 ㊞

会計監査 鳥塚 智 ㊞

（3）平成30年度予算案

（会計年度：平成30年4月1日
～平成31年3月31日）

収入の部

科目	金額 (円)
前年度繰越金	185,621
会費	20,000
本学会助成金	0
合計	205,621

支出の部

科目	金額 (円)
講演会講師旅費・謝金	50,000
事務・通信費	2,000
振込手数料	500
予備費	153,121
合計	205,621

以上

発行 近畿雑草研究会

代表 三浦 励一 (龍谷大学農学部)

庶務・会計幹事 岩上 哲史 (京都大学農学部)

E-mail : iwakami.satoshi.2v@kyoto-u.ac.jp

事務局 京都大学大学院農学研究科

雑草学分野

〒606-8502

京都市左京区北白川追分町

電話・ファックス : 075-753-6062

研究会のご案内

近畿雑草研究会では、日本雑草学会学術研究部会・除草剤抵抗性雑草研究会と共催で、下記のとおり研究会を開催いたします。第1部、第2部ともに参加費は無料です。また、近畿雑草研究会・日本雑草学会の会員でなくてもご参加いただけます。

第2部（近畿雑草研究会）は外来雑草をはじめとする不明雑草・問題雑草の同定会・情報交換会とします。参加される皆様は（できる限りでけっこうですが）**地元で問題になっている雑草や名前のわからない雑草のサンプルをご持参ください**。腊葉標本・生植物のどちらでもけっこうです。生植物は土を落とした状態で、1種ごとにポリ袋に入れてお持ちください。花や実がないものでもけっこうです。すでに名前がわかっているものでも、他の地方から持ってこられたサンプルと並べてみることにより、また新たな発見があるかもしれません。なお、環境省が定める特定外来生物に該当する植物の持ち込みはできませんのでご注意ください。

資料準備および会場確保の都合上、参加される方は7月25日（木）午前中までに岩上（iwakami.satoshi.2v アットマーク kyoto-u.ac.jp）まで、1部、2部、懇親会の参加について、それぞれお知らせいただけますようお願いいたします。

日時：平成31年7月27日（土） 受付 13:00～、講演 13:30～

場所：京都市左京区北白川追分町

京都大学北部構内農学生命科学研究棟1Fセミナー室

第1部 除草剤抵抗性雑草研究会

穀物の輸入元である北米や南米では、少なくとも4種のグリホサート抵抗性ヒユ属雑草が報告されています。これらの種子が輸入穀物とともに国内にも侵入していますが、ヒユ属雑草の識別は容易ではなく、かつ、同種異名も存在し、一部で混乱が生じています。本研究会の前半では、ヒユ属雑草の識別と生態的特徴についてご講演いただきます。第2部では、ヒユ属も含めた種名不明の雑草の同定会を行います。畑などに侵入し、除草剤処理後も残存している未同定雑草などのサンプルもご持参ください。後半は、国内で最初に報告されたグリホサート抵抗性ネズミムギの防除について、共生する糸状菌エンドファイトとの関係からご講演いただきます。

13:30～13:35 「はじめに」

富永 達 氏（京都大農学研究科）

13:35～14:35 「ヒユ科ヒユ属雑草数種の識別と生態的特徴」

浅井 元朗 氏（農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）

14:35～15:35 「グラスエンドファイトとの共生からみたグリホサート抵抗性ネズミムギとその防除」

山下雅幸 氏（静岡大学学術院農学領域）

15:35～15:45 休憩

第2部 近畿雑草研究会勉強会

近畿地方でも農業現場で外来雑草が猛威をふるっていますが、新顔の雑草を正確に同定することはなかなか難しいものです。「たぶん」でとどまっていることも多いのではないのでしょうか。第2部では、雑草研究者・農業関係者が集まる機会を利用して、雑草の同定・識別の勉強会・意見交換会をおこないます。第1部の講師陣に加え、近畿地方で精力的に帰化植物の調査を進めておられる稗田真也氏に講師をお願いしていますが、全員参加の情報交換会にしたいと思います。

最後に、「帰化植物ML」などを通じて帰化植物の最新情報を精力的に発信しておられる稗田真也氏から、外来植物の学名をつきとめるまでの過程について、事例紹介をしていただきます。

15:45～17:00 同定・意見交換会

講師：浅井 元朗 氏・稗田 真也 氏 ほか

17:00～17:30 「外来植物における同定の面白さと重要性

—オオバナミズキンバイ（広義）を中心に—」（仮題）

稗田真也 氏（滋賀県立大）

18:00～ 合同懇親会

講演会終了後、会場周辺で講師の皆様を囲んだささやかな懇親会を予定しています。

交通手段のご案内

JR 京都駅、阪急四条河原町駅から京都市バス 17 番あるいは京都市営地下鉄烏丸今出川駅から 203 番に乗車、「農学部前」で下車ください。京阪出町柳駅からは、徒歩 15 分程度です。詳しくは、

<http://www.weed.kais.kyoto-u.ac.jp/access.html>

を参照ください。

当日は、建物出入り口がロックされていますが、係の者が建物周辺で待機しています。不明な点などございましたら冨永（tominaga アットマーク kais.kyoto-u.ac.jp）あるいは岩上（iwakami.satoshi.2v アットマーク kyoto-u.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

（以上）